

令和 6 年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 7 年 2 月 1 3 日

江別市立江別第一小学校

1 本年度の重点目標

主体的に学び 共に学びを深め 自信をもって表現する 子どもの育成
 ～育てたい資質・能力を明確にして～

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針の重点	「めざす子ども像」の実現状況はどうだったか。 ①思いやりをもち助け合う子 ②すすんで学びよく考える子 ③ねばり強くやり抜く子 ④心も体もたくましい子	A 3.40	心と体をどう鍛え、たくましさをも身につけさせるかが今後の課題である。 自己肯定感や自己有用感を高める取組を推進していきたい。	A	A
	「主体的に学び」「共に学びを深め」「自信をもって表現する」子どもの育成ができたか	A 3.47	・学校の教育活動全般で、様々なアプローチから、今年度の重点「主体的に学び、共に学びを深め自信をもって表現する子どもの育成」を最後まで目指す。本校の研究課題の解明と授業改革をさらに進めていく。	A	A

教育課程・学習指導	<p>地域の実態を踏まえた特色ある教育課程の編成・実施に努め、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る指導の充実を図ることができたか。</p>	A 3.53	<p>外部講師を招いての授業が多くみられ、指導の充実が図られた。今後も外部講師については積極的に活用していきたい。</p>	A	A
	<p>基礎基本の確実な定着のための個に応じた指導体制を確立し、TT指導、習熟度別指導、合同授業、交換授業などの多様な学習形態効果的な実施ができたか。</p>	A 3.59	<p>主に算数科において習熟度別授業やTT授業などの充実も図られた。今後も基礎基本の確実な定着のために様々な学習形態を工夫していきたい。</p>	A	A
	<p>授業に「対話」を位置付け、対話を重視した授業改革を進め、児童生徒同士が考えの価値交換を行うことができたか。</p>	A 3.53	<p>授業の場面で「対話」を取り入れる等の工夫が見られた。 今後は対話の質の向上を目指したい。</p>	A	A
	<p>授業でICT機器を有効に活用し、児童がお互いの考えを交流する中で「思考力」「判断力」「表現力」等を育成することができたか。</p>	A 3.38	<p>ICTを使うことが目標にならないように、児童の資質・能力の向上のための有効な手段として、活用方法を見極めていきたい。</p>	A	A
生徒指導	<p>自他を大切にし、互いに認め支え合い「いじめを絶対に許さない」学級・学校づくりを進めることができたか。</p>	A 3.68	<p>今後も人権教育については、学校全体で取り組んでいく。 いじめについては、調査・聞き取り・指導・報告・引継ぎ等を丁寧に、しっかり行っていく。</p>	A	A

	いじめや不登校、問題行動に関わる情報共有と解決に向けての組織的な対応を取ることができたか。	A 3.68	定期的に不登校対応検討委員会を開催し、情報共有を図ることができた。またいじめ防止委員会も開催し、情報共有と役割分担を明確にし、組織的に対応することができた。	A	A
小 中 一 貫 教 育	小中一貫教育のための中学校区内小・中学校との連携を進めることができたか。	B 3.26	第一小は、一中と三中ブロックに挟まれ、これまで学校として動きづらい場面があった。しかし、今年度は共通のスタンダード作成に向けて具体的に作業を進めることができた。両校区に跨る第一小が2つの中学校区をつなぎ、取組を進めていきたい。	A	A
特 別 支 援 教 育	児童個々の教育的ニーズに応じた特別支援教育を充実させることができたか。	A 3.68	支援を要する児童や不登校傾向の児童に対し、コーディネーターを中心に、担任・管理職・担外・通級教室が連携して対応できた。また、外部機関とも連携ができた。引き続き、組織的に指導・支援を行っていく。	A	A

働 き 方 改 革	子どもと向き合う時間を確保し、 持続可能な働き方の推進を図るこ とができたか。	B 3.38	職員の勤務の割振 りに関しては、今後 も最大限活用してい く。 業務全般の精選 は、今後もできるこ とから行い、保護者 にも理解を求めてい く。	A	A
<p>【評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価項目の設定、評価内容、妥当である。 ・結果のみではなく、子どもたちのがんばりなど、そのプロセスを大切にしてほしい。 					

【評点】 A：よい B：おおむねよい C：ややよくない D：よくない